

折に触れ 四字熟語

NO. 335 『赤心奉国』 せきしん ほうこく

< 意味 > 誠意をもって国のために尽くすこと。

< 出典 > 『資治通鑑』陳紀

表 言 : 赤心奉国の臣

用 法 : 楠木正成は赤心奉国の人といえる

語 釈 : 「赤」はありのままの意で、「赤心」はうそいつわりのない真心。誠意。中国北齊の楊愔よういんがクーデターで殺されるとき、大声をあげて、自分は忠臣であり殺される覚えはないと叫んだ。そのときの言葉の中にある語。

一 言 : 7月21日、参議院選挙の大勢がほぼ決した状況を報じるテレビ報道を観ていて、石破総理が記者会見の中で「せきしんほうこく」という言葉を使ったことが気になりました。早速朝日新聞の記事で確かめようとしたが見つかりませんでした。しかし、ネット報道で検索すると、石破総理が会見で「これから先はまさしく『いばらの道』だ。より真摯よういんに他党との議論を深め、赤心報国の思いで国政にあたる」と発言したとありました。ネット報道ではほとんどが「赤心報国」と報道されていますが、7月27日夜のNHKスペシャルを観ていると石破総理が同様の発言をしていました。その時のテロップは「赤心奉国」と出ていました。石破総理がどちらの四字熟語を引用したのか知りたいところです。なお、「赤心報国」は「赤心奉国」とほぼ同意ですが、偽りのない真心で国に報いる、尽くすの意味です。

参考文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」